USPTO、審査官の判断時間を増加させるテストプログラムを開始
～最終拒絶後の応答に対する審査官の判断時間を増加～

2012 年 4 月 3 日
JETRO NY　諸岡

米国特許商標庁（USPTO）は4月2日、最終拒絶(Final Office Action)後に行われる出願人による応答に対する審査官の判断時間を増加させるテストプログラムを行うと発表した[1]。

このプログラムはAfter Final Consideration Pilot(AFCP)と名付けられ、特許出願[2]には3時間、意匠出願[3]には1時間の判断時間が与えられ、その時間内において出願人の応答を検討し、特許許可等が可能であるか否かを判断する。

同時に公表されたガイドライン[4]では、最終拒絶後に想定される出願人の応答を列挙し、当該応答に対して、必要に応じて3時間又は1時間の検討を行うことが述べられている。そして、出願人と面接を行った場合、特許の場合は2時間をテストプログラムで用いたと計上し、1時間を（従来スキームの）面接で用いたと計上すること、意匠の場合は1時間をテストプログラムで用いたと計上し、面接に用いた時間を（従来スキームの）面接で用いたと計上することが定められている。

このテストプログラムの期間は2012年度の第3四半期（4月～6月）とされている。

USPTOはこのような時間を設けるテストプログラムにより、（最終拒絶後の）特許許可の数が増加するか否か、そして、継続審査請求（RCE）の数が減少するか否かを評価することになる。

（了）

---

[1] USPTO ウエブサイト
[2] utility, plant, reissue 出願を指す。
[3] 正確には、design patent であり、特許の一部であるが、ここでは意匠出願と記載した。
[4] AFCP ガイドライン（PDF）